

自分や周囲だけでも守りたい (それを皆でやればいい)



執筆者

堀 成美

ほりなるみ

看護師・感染対策ラボ代表

神奈川大学法学部、東京女子医科大学看護短期大学卒業。2009年国立感染症研究所実地疫学専門家コース(FETP)修了。同年聖路加国際大学助教。2013年より国立国際医療研究センター感染症対策専門職。2015年より国際診療部医療コーディネーター併任。2020年8月より現職。

百日咳は、その名の通り長期間続く咳の症状が特徴です。日本での課題は2つあります。1点目は予防のためのワクチンのプログラムが整っていないこと。乳幼児期に接種をした後に、効果が下がってくる頃に追加接種をする必要があるのですが(表2)、日本では思春期の定期予防接種として位置づけられていません。任意接種(自己負担ありのワクチン)です。このため、「本当は接種した方がいい」ことを知らない人・保護者の方が多く、また接種した方がいいと気づいたとして、自費での接種だとしたらどれくらいの人々が接種をするでしょうか。

表1 妊娠中のワクチン接種で赤ちゃんがかかりにくくなるVPD*

ポイント	予防・ワクチン
・百日咳に対する免疫力が低下して、小学生～大人の百日咳が増加。	三種混合ワクチン1回 (日本では成人用三種混合ワクチンTdapは承認されてない)
・乳児がかかると命に関わるため、周りの者がうつさないようにワクチンを接種。	※乳幼児は四種混合ワクチン4回定期接種
・出生後の赤ちゃんの予防のために、欧米では妊婦が成人用ワクチンを受ける。	

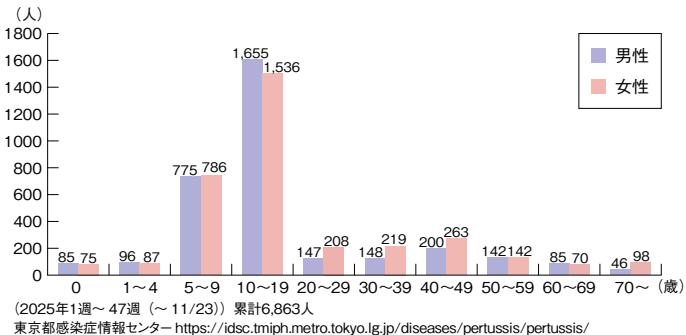
NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会「オトナのVPD：子育て世代のワクチンで防げる病気」
(<https://otona.know-vpd.jp/kosodate.html>)より、百日咳に関する項目を抜粋

表2 予防接種の免疫力が弱くなっているVPD*

ポイント	予防・ワクチン
・百日咳に対する免疫力が低下して、小学生～大人の百日咳が増加。	三種混合ワクチン3回
・乳児がかかると命に関わるため、周りの者がうつさないことが重要。	【追加接種(3回接種者)】
・周囲に妊婦や低月齢の乳児がいる人は、三種混合ワクチンの接種がおすすめ。	三種混合ワクチン1回

NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会「オトナのVPD：思春期・青年期のワクチンで防げる病気」
(<https://otona.know-vpd.jp/seinen.html>)より、百日咳に関する項目を抜粋

図 百日咳の年齢階級別・性別報告数(東京都)



*VPD(Vaccine Preventable Diseases)とは、「ワクチンで防ぐことができる病気」のこと